

## R3年度 学校自己評価に基づく来年度への改善案

### 【めざす児童像】

- 道徳の学習内容と関連付けて、ソーシャルスキルトレーニングを一部取り入れる。
- 少し頑張れば自力でできる目標を設定したり、失敗を恐れず挑戦させる活動を仕組んだりして、成功や失敗を繰り返しながらもその過程を価値づけること。友達同士声を掛け合い、励まし合える関係を築けるような学級づくりをすること。その両輪を意識して、学年に応じた年間計画を立てる。
- コロナ禍における異学年交流の方法や時間の割り当てを考える。

### 【学習指導等】

- 学年間の系統と教科間のつながりを意識して教材研究にあたる。
- 授業の中で取り組む練習問題数を確保する。
- 既習事項を活用して未習内容に取り組む力が育つよう、「ちょっと先」へとつなぐ授業や関連付ける投げかけをする。
- 時間や字数を制限したりキーワードを使ったりする条件の中で表現する練習に取り組む。
- 研究テーマによっては、振り返りの方法やカードの例を提案したり、提案してもらって検討したりする。
- 児童がICT機器を使って学ぶ取り組みを増やしていく。
- （研究教科）の授業づくり研修の割合を増やしたり、ワークショップ型で教材研究の仕方自体を交流したり教材研修をしたりするような研修の在り方を工夫する。

### 【校内研究】

- 教科をしばらず、全教科を包括するようなテーマに変える。  
子どもの実態をもとに、学力・生活力を伸ばすため、授業の中でも子どもを育て、学校教育目標に迫るようなテーマを設定する。

### 【小中学校間(滝野地区)の学びのつながり】

- 出前授業（市内全小中学校で実施）は、小中教師間の授業・指導方法等のよい交流や理解につながる。子どもたちにとっては、授業後の肯定的な意見も多く、中1ギャップに陥らないための一つの手段にもなる。

## 【特別支援教育】

- サポートファイルや「個別の指導計画」をより身近で作成・活用がしやすいものにする。
- 定期的にエピソード記録や「個別の指導計画」の手立て・評価などの追記や見直し(メモ・箇条書き・手書き…)をする。
- 生活指導の学年ノートや「指導の記録」など、既存の指導・支援の記録を活用する。
- 年間スケジュールや作成上のアドバイスを示し、参考にできる事例集や資料を調える。
- 効果的な交流及び共同学習を進める。
- 中学校区3校の交流を取り組みやすいことから進めていく。
- 職員打ち合わせ等の内容をアシスタントや介助員に伝える。
- 特別な支援を必要とする児童について、特支担任と交流担任、介助員、アシスタント等、関わる全ての指導者でしっかりと共通理解して指導にあたる。

## 【生活指導】

- 個人では小さい出来事だと感じた場合にも、報告・連絡・相談をし、チームで対応することを徹底する。
- 可能な範囲で学校行事を行い、子ども同士の豊かな人間関係づくりに努める。
- 特別活動の時間を利用し、各クラスで月に一度、クラス活動(遊びなど)を計画から実施まで行うことで、子ども同士の豊かな人間関係づくりに努める。
- ネットトラブル(トラブル見つけ、トラブル対処法等)について、専門機関(ICT支援員など)を活用し、児童及び保護者の研修の機会を確保する。

## 【道徳教育】

- 兵庫県版道徳副読本(心シリーズ)を親子読書し、感想を書くワークシートを配布する。学期に1回実施できることを目標に、まず来年度は、1・2学期やってみる。
- 「考え、議論する道徳の授業づくり」をするために、学年で一つの教材と一緒に研究し、実践した後、交流をし、教師自身の力をつけていく。
- ソーシャルスキルトレーニングを取り入れられる教材を4月に提案する。

## 【特活】

- リモートによるオンライン集会については、成果があった。引き続き、工夫して活動していく。また、「リモート遊び集」を紹介する。
- リモートによるオンライン集会の際には、事前準備を万全にしておく。

- クラブ活動については、「自治的活動」を活性化するために時間を確保することが必要である。行事が削減されるなか、授業時数も確保することが可能であるため、クラブ活動の時間を年間7時間設定する。(木曜日6校時)
- クラスでの話し合い活動、係活動の充実
- 朝会や集会での発言・発表や、始業式・終業式での作文発表は、リモートであっても、できる限り原稿を見ないで言えるようにする。

## 【体育】

- 来年度も新体カテストは全学年実施のため、測定方法を徹底するために、クラスにお任せではなく、上学年、下学年の2まとまりで行う。
- 外のサーキットトレーニングの得点化を拡大する。
- ドッジボールコートの修繕及び新設(「投」の運動能力は向上した)
- 市全体としては今後、柔軟に力を入れる。(→家庭と連携した取組のカードを活用する。)

## 【安全全般】

- 安全に登下校を行うために「白線の内側を1列で歩く」「飛び出しをしない」「信号を守る」「通学路を通る」ことを、引き続き全児童に啓発していく。
- 「廊下や階段で遊ぶ子がいたため危なかった」という課題改善のため、校内での安全な過ごし方に関する話を、リモート朝会を通して行う。

## 【防災】

- 不審者対応訓練として、「子ども110番」の訓練を考えている。これまでは加東警察の指導の下、子ども110番の利用の仕方についてデモンストレーションを行っていた。可能なら、実際の110番の家の方に協力していただき、より実践に即した訓練になるよう工夫する。
- 「子ども110番の家」の再募集をする。受け入れマニュアルを配布する。
- 掃除時間中の訓練や管理職が一時不在(校長が出張、教頭は授業中等)での訓練など、場面設定を工夫し、危機管理意識が高まるような訓練を実施する。

## 【安全点検】

- 毎月15日に複数の目で、確実に安全点検を行うようにする。
- 安全点検表の改善→点検するポイントを具体的に示しておく。

○危険箇所は、管理職や事務職員と毎回必ず共有し、必要に応じて業者等に修理営繕を依頼する。

### 【働きやすい職場環境づくり】

- 今後も精選した会議を水曜日に設定する。
- 時間内に会議が終わるよう、事前に資料に目を通し、意見をもって会議に臨んで、効率よく進める。
- 業務内容の優先化を図り、日々の業務についても精選化に努める。

### 【学校・家庭・地域が一体となった豊かな教育環境づくり】

- 「かとう学」をどんどん使っていく。3・4年生の社会科、6年生総合など、着実に実践を重ねながら浸透させていく。
- 今年度は、コロナ等の環境が昨年度よりよかったこともあり、舟運や絵葉書の研修などが実施できた。継続した取り組みにしつつ、学校全体のカリキュラムとして、総合学習を中心に見直していきたい。

### 【その他】

- 全職員で共通理解したことは、一貫性のある指導をしていく。(例えば・・・東小の約束、雨の日の業間10分間読書など)
- 挨拶の啓発(朝、帰り、来客時・・・)
- 教師自身が、物を大切にすることや節電、正しい言葉遣いや行動などの意識を高め、クラスや学校全体で意識付けする。